

■ 老上西学区地域協働合校推進事業 (老上西学区まちづくり協議会 子ども育成部会)

1 【活動の趣旨】

自然とのふれあいを深め自然への理解と創造性を育み、子どもの健全な心身の育成と豊かな心を養う。地域での世代を超えた交流を図る。

2 【特徴的な活動内容】

○「高齢の方への残暑お見舞い」 8月

今年度は新型コロナウイルス感染症のため、地域での交流がなかなかできなかった。そこで、老上西小学校の協力を得て、地域の高齢の方々に全児童が一人2枚ずつ、残暑お見舞いのハガキを書き、差し出した。子どもたちの心のこもったサプライズに多くの高齢の方から、喜びと感謝のお言葉をいただいた。

○「避難所体験」 10月24日(土)

小学4～6年生を対象に、災害発生時、一人ひとりが自らの的確な判断のもとで防災・減災行動をとることができるように「親子で学ぶ、避難所体験」を開催した。市の職員の指導の下、防災備蓄倉庫の見学や段ボールベッドや簡易トイレの組み立てなどを親子で体験し、災害に対する心構えを新たにすることができた。



【簡易トイレ作り】

○「新春書き初め大会」 1月9日(土)

小学1～6年生を対象に新春恒例の書き初め大会を開催した。矢橋在住の草川薫人さんに指導をお願いし、最初に草川さんが4メートル四方の紙に「勇(Brave)」という字を大書し、児童の代表2人がそれぞれの思いを書き加えた。

その後で子どもたちは、課題の「力もち」「お正月」などの字をのびのびと力強く書き上げた。書き初めの後、地域の団体に協力を得て、ニュースポーツやクイズなどを行い、地域の人と子どもたちが世代を超えて交流を図った。



【書き初め大会】

3 【実施に当たっての工夫】

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に、特に配慮し実施した。
- ・団体ならびに地域の方の協力を得ることにより、円滑な運営が図れた。

4 【事業の成果】

コロナ禍の状況であったが、長年継続してきた事業については感染防止対策を十分に施したうえで、開催することができた。活動が少ない中で地域の子どもと大人がふれあい、共に活動する良い機会となった。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

今後も With コロナが続く中で、「ふれあい」や「交流」について、新たな取組を模索して、「つながり」を絶やさぬように取り組んでいく必要がある。